

平成30年度第2回教育委員会協議会 会議録

平成30年度第2回教育委員会協議会

場所：高知共済会館 「桜」

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成30年5月14日(月) 18:00

閉会 平成30年5月14日(月) 19:45

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	伊藤 博明
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	木村 祐二
	教育委員	中橋 紅美

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	岡村 昭一
〃	教育次長	高岸 憲二
〃	教育次長	長岡 幹泰
〃	高等学校課課長	竹崎 実
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	山岡 正文
〃	高等学校課課長補佐	藤田 優子
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	池上 淑子
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良(会議録作成)
〃	高等学校課指導主事	石丸 右京
〃	教育政策課課長	酒井 啓至
〃	教育政策課課長補佐	泉 千恵
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	三谷 玲子
〃	教育政策課指導主事	小島 丈晴(会議録作成)

【開会】

伊藤教育長	<p>ただ今から、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」に関します平成30年度の第2回高知県教育委員会協議会を開会させていただきます。</p> <p>まず最初に、本日の教育委員会協議会についてのご説明を含めたご挨拶をさせていただきます。</p> <p>本日は、本年度で2回目、全体でいいますと12回目の教育委員会協議会となります。前回、本年度第1回目の協議会では、清水高校の高台移転と四万十町内の2校、窪川高校と四万十高校の学校の在り方について協議をいただきました。</p> <p>その際、四万十町内の2校について、統合の一例としてお示ししました、キャンパス校について取り上げましたけれども、少し具体的なところが見えにくかったと、改めてもう少しキャンパス校についての説明をいただき</p>
-------	---

中橋委員	<p>たいという、委員からのご意見をいただきました。</p> <p>本日は、実際にキャンパス制を導入している学校の事例などを調査してまいりましたので、そういったものを含めまして、キャンパス校についての理解を一定深めさせていただきたいというふうに考えております。</p> <p>そのうえで、前回協議をいただきました四万十町内2校の学校の在り方につきまして、2案または3案、できましたら2案に絞っていただきたいというふうに思っております。</p> <p>また加えまして、東部地域の安芸市内の安芸中学校・高校、それから安芸桜ヶ丘高校につきまして、東部地域の拠点校としての活力のある学校の在り方についてご協議をいただきまして、その在り方についても、本日、6案をお示しすることにしておりますけれども、一定数の複数案に絞っていただければというふうに思っておりますので、どうかよろしく願いをいたします。</p> <p>それでは、本日の議事録の署名人は中橋委員、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>はい。</p>
------	---

【議題】

(1) キャンパス校について

伊藤教育長	<p>そうしましたら、まず前回の会議で事務局から提案がありましたキャンパス校についてですが、本日、より具体的な事例を紹介していくことになっておりますので、キャンパス校について、高等学校課から説明をお願いいたします。</p>
山岡企画監	<p>資料1について説明させていただきます。</p> <p>そこにもありますけれども、キャンパス校とは、複数のキャンパスを持つ一つの学校であります。キャンパス制といわれている学校の在り方には、2種類あるので整理しておきたいと思っております。</p> <p>また、キャンパスという文言につきましては、次のページの山口県や熊本県のように、校舎という文言を使っている例もあります。</p> <p>(1)の本校・分校型につきましては、本校・分校としてそれぞれ独自性のある取組をしていますが、一つの学校というものです。</p> <p>(2)キャンパス校型は、対等な複数のキャンパスを持つ一つの学校というもので、まだ本県にはキャンパス校型の学校はありません。</p> <p>ア～キまでの7項目につきまして、本校・分校型とキャンパス校型の共通点・相違点についてご説明いたします。</p> <p>ア 学校運営につきましては、本校・分校型は、それぞれの学校がある程度独立した基本方針のもとに運営しますが、キャンパス校型は、統一した基本方針のもとに複数のキャンパスを使用し、一つの学校として運営します</p> <p>そして、イ 校名につきましては、本校・分校型は、本校は●●高等学校、分校は●●高等学校▲▲分校というふうになります。キャンパス校型は、校名は●●高等学校で統一され、各キャンパスは●●高等学校■キャン</p>

パス、●●高等学校□□キャンパスとなります。

いずれにしましても、下の図に記載していますように、校名につきましては、仮に再編・統合になった場合でも、既存の学校の校名を使用する場合もあれば、新しい学校名とすることも可能であります。

続きまして、ウ 校歌、校章、制服といったスクールアイデンティティにつきましては、本校・分校型は基本的に共通のものとなり、キャンパス校型も共通のものとなります。

エ 授業につきましては、本校・分校型は、それぞれの学校でそれぞれの校舎で行いますが、一部の教科では兼務発令のうえ、分校に教えに行くという場合もあります。キャンパス校型は、基本的にそれぞれの校舎で行いますけれども、教員が必要に応じてキャンパ間を移動して行う「校舎ごとの授業」と、生徒が移動して別キャンパスの生徒と一緒に授業を受ける「合同授業」を行うこととなります。

オ 学校行事や式典につきましては、本校・分校型は、本校・分校のそれぞれで行います。キャンパス校型は、基本的に合同で行います。

そして、カ 部活動につきましては、本校・分校型は、合同練習を行い合同チームを組んでも、基本的にブロック大会や全国大会への出場は、野球や一部の競技を除き、認められていません。キャンパス校型は一つの学校なので、キャンパス同士の生徒の合同練習の実績がありましたら、一つのチームとして大会に出場し、ブロック大会や全国大会への出場も可能となります。

最後、キ 学校の再編・統合にあたりまして、施設や設備の移設が難しい場合に、本校を分校化するといったことがありますけれども、キャンパス校型は、そういった場合だけではなく、生徒数が少なくなり高校教育の質の確保が難しくなった場合にも、地域に学校を残す方法として、複数の本校をキャンパス校化して、一つの学校とすることも考えられます。

続きまして、2ページをご覧ください。キャンパス校を導入している具体例を掲載しています。

長野県佐久平総合技術高等学校は、平成27年度に開校しましたが、浅間キャンパスに農業科と工業科を設置して、ここを本キャンパスに位置付け、臼田キャンパスに総合学科を設置しています。両キャンパスの距離は約10kmで、車で25分程度となっています。

山口県立大津緑洋高等学校は、平成23年度に開校しましたが、大津校舎に普通科を、日置校舎に生物生産科、生活化学科を、水産校舎に海洋技術科、海洋科学科を設置しています。大津校舎と日置校舎間は約7km、大津校舎と水産校舎間は約1kmとなっています。

熊本県立阿蘇中央高等学校は、平成21年度に開校しましたが、阿蘇校舎に普通科と総合ビジネス科を設置して、阿蘇清峰校舎に農業食品科、グリーン環境科、社会福祉科を設置しています。両校舎は約2kmの距離にあります。

続きまして、移動はバス会社に県費で委託する例のほか、同窓会がバスを購入してPTA費による外部委託をするといった例もあります。

管理職のうち、校長につきましては、本キャンパスに置く場合と各校舎間を行き来する場合があります。副校長先生につきましては、1名以上を各校舎に固定して配置するような形になっております。

	<p>授業につきましては、芸術や家庭科、商業を中心に教員が各キャンパス、校舎を移動して実施する場合のほか、「総合選択制授業」として、各校舎をバスで移動して午後の授業を実施するといった例も、熊本県の例のようにあります。</p> <p>部活動は、キャンパス・校舎ごとに設置されており、他のキャンパス・校舎に設けられている部活動に加入することもできます。</p> <p>また、入学式、卒業式、クラスマッチ、また合同学習発表会、体験航海、農業体験、そして修学旅行といった学校行事を合同で行っています。</p> <p>聴き取りを行った管理職からは、統合前の地域にも学校が残るといったことのほか、人数と設備に関するスケールメリットがある。そして、教職員の乗り入れ授業の実施、部活動の活性化のほか、普通科と産業系専門学科によるキャンパス校の場合に、進学実績や資格取得の向上が見られたということがメリットとして挙げられております。</p> <p>一方、生徒のキャンパス間の移動費用の問題、教職員が新たな学校の在り方に慣れるまで時間が必要といった課題も、一方では挙げられております。</p> <p>また、各校舎独自の取組は継続しつつ、新たな学校の在り方などで、管理職の学校運営力が重要となってくるといったようなお話もございました。</p> <p>また、職員が移動せずに打ち合わせができるテレビ会議などの導入の検討が必要といったような意見もございました。</p>
伊藤教育長	<p>それでは、前回の宿題ということもありまして、キャンパス校についての再整理と、それから具体的に先進事例といいますか、3つの県の3校についての調査結果をまとめたものをご報告させていただきましたけども、これらにつきまして、ご質問とかご意見とかありましたらお願いをいたします。</p>
八田委員	<p>ほかの県のキャンパス校の例のなかで、授業に関してはある程度、生徒が移動したり先生が移動したりするのはあるんですけど、例えば部活動に限って、生徒が移動するっていうようなことはうまくいくんですか。</p>
山岡企画監	<p>部活動の場合にバスなどで移動して、それぞれのキャンパス間で合同練習をするとといったようなことも可能だというふうに思っております。</p>
八田委員	<p>実際に例として、そういうのはありますか。</p>
山岡企画監	<p>全ての学校でそういった例をとっております。</p>
竹島委員	<p>八田委員と同じというか、ここに長野県とか山口県なんかは距離的にも、長野県はちょっと時間かかりますよね。それで高知県の場合は、やはり今、週休2日にしろとか時間的にも2～3時間にしろという場合がありますので、この部活動の活性化には、高知県の場合は、遠いかなと思うんですけども。</p>

竹崎課長	<p>委員がおっしゃるように、距離の問題もございまして、なかなか日常的に頻繁に合流するというのは難しい部分もあろうかとは思いますが。</p> <p>ただ現状としては、団体スポーツであるとか団体競技とかは、もうチームが組めないというような現状になっている所もございまして。</p> <p>その面では、両校が一緒になることによって合同で練習ができる、大会に参加できるということになりますので、やはり一定、活性化にはつながるのではないかというふうには考えております。</p>
八田委員	<p>キャンパス化しているほかの例は、学科が別のキャンパスということですよ。</p> <p>例えば、同じ普通科同士でキャンパス制ってあり得るんでしょうか。もしあったとすると、生徒はどういう形でどっちのキャンパスを選ぶんでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>例として、一番下に挙がっています熊本県の天草拓心高等学校というところでは、普通科のところは共通していますので、そういった普通科について両校で実施している例もあります。</p> <p>そういったところも参考にしながら、今後具体的に、もしキャンパス制ということであれば、それぞれの学校で特色を持たすような構成とかも、そういったことも含めて検討するということも考えられるかなど、いうふうには思っております。</p>
伊藤教育長	<p>今のは普通科同士、キャンパス校と本校で普通科がそれぞれある場合もあるし、今後、その特性を生かしながら考えていくことになるという答えでいいですか。そういう答弁ですね。</p>
山岡企画監	<p>そうです。</p>
伊藤教育長	<p>ほか、ございませんでしょうか。</p>
各委員	<p>〈意見なし〉</p>

(2) 高吾地域の継続検討事項について

伊藤教育長	<p>そうしましたら、ただ今ご説明いただきました内容を踏まえまして、高吾地区の継続検討事項についての協議にしたいというふうに思います。</p> <p>具体的には、四万十町の窪川高校と四万十高校についてです。前回と説明した内容、資料は一緒ですので、おさらいという形での説明になると思いますので、よろしく願いをいたします。</p>
山岡企画監	<p>資料2について簡単に説明させていただきます。前回と同じ資料でございます。</p> <p>検討事項として、2校の存続の有無についてというところなんです。課題としましては、平成38年度ぐらいになりますと、それぞれ窪川高校が40人を下回り、四万十高校が20人を下回るといったような状況がありますの</p>

	<p>で、生徒数の減少を踏まえて、県教委として3つの案を出させていただいております。</p> <p>窪川高校・四万十高校、それぞれ本校として存続する案1。そして案2として、それぞれ〇〇キャンパスとして残るキャンパス制。それから案3として、どちらかの校地に一本化するという案3。こういった3案をお示しさせていただいております。</p> <p>今日の会で、一つに決め切るということではないですが、複数の案についてどう考えるのかを検討していただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
伊藤教育長	<p>それでは今、高等学校課からも説明がありましたように、前回ご説明いたしました、この3案、第1案が両校を本校同士として継続をする。第2案・第3案が統合するという形ですけれども、第2案としまして、キャンパス制を導入して本校とキャンパス校という形。それから第3案としては、どちらかに校地を一本化すると。</p> <p>この3案として、事務局から説明させていただきますので、この内容につきまして、前回ご意見をお伺いしたところですが、キャンパス校の説明も先ほどございましたので、それも踏まえたうえで、もう一度各委員の皆様からご意見をお伺いしたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
竹島委員	<p>やはり、中山間の高校は残すべきだと私も言いましたけれども、何かこの人数の減り方を見ると本当に大変だと思います。</p> <p>いろんな面で各地域の方も頑張っているとは思いますが、やはり本校として残すのは本当に難しいと思いますので、第2案のように、〇〇キャンパス、〇〇キャンパスという形で、今も少し言ったんですけども、文武両道というか、スポーツも盛り上げれば良いと思います。</p> <p>子どもさんの通学方法を考えても、キャンパス間の移動は学校の先生方は可能だと思うんですけども、子どもたちのことを考えた場合、雨の日とか雪道とか危ないと思います。</p> <p>そこら辺のことは、やはり何かの関係で子どもさんが移動する場合は、このキャンパス校としての具体例に載っていますように、県の方とか各市町村の方でバスなんかを準備してくれれば、子どもの安全性も確保できると思いますので、やはりキャンパス制の方向で進めていってほしいと思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。中橋委員、お願いします。</p>
中橋委員	<p>私としましては、できる限り地域に学校を残すという、この地域においてはその視点を持っていたいと思います。</p> <p>ただ、その第2案とされているキャンパス制というのが、実現可能なものなのか。本当に、今日説明を受けましたけれども、そういう他県の状況と、高知の今この地域の置かれている状況とで、他県のメリットが生かせるのか、その辺りがまだちょっと今聞いただけでは、私は判断しにくいなというところがあるので。</p>

	<p>私としては、本校として残す案と、それからキャンパス制というものが、本当に実現可能なのかどうかというところを、もう少し今後検討していったうえで、どうしていくのかというのを最終的に考えたらいいのではないかなと思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。それでは木村委員、お願いします。</p>
木村委員	<p>私は、例えばこの1案というのは、とりあえず先送りをする案だというふうに感じます。やがて何年か経つと、またこの問題について議論をする必要があります。</p> <p>そういう意味合いでは、2案か3案しかないわけですが、地域の方々の想いであるとか、その中山間のエリアが学校だけではなくて、本当に持続可能な地域として残っていくためには、ある種の核として学校という場所が必要だというふうに思いますので。</p> <p>個人的には第2案を推薦するわけですが、選択肢としては、第2案、第3案という選択肢も必要じゃないかなというふうに考えています。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。それでは八田委員、お願いします。</p>
八田委員	<p>両校が本校で残るのは、私も将来的な見通しが立たないので、子どもたちにもむしろデメリットが大きいと感じました。それで、何らかの統合はせざるを得なくて、そうすると、案2なのか案3なのかということになります。</p> <p>キャンパス校については、今日ご説明いただいて少しイメージが湧いて、むしろ本校・分校よりはメリットのあるやり方なのかなという気はしています。</p> <p>ただ、特に四万十高校の方が、どういう特色ある学校なのかというところがなかなか見えてなくて、旧大正町としてその地域にぜひキャンパスを置きたい、高校を残したいという気持ちはすごく私もあるんですけど。</p> <p>先ほど質問をしましたが、キャンパス間の移動をちゃんと交通機関というか、学校としてバスを出すなりして、例えばクラブだけでもやりに行けるようなことをしましょうということを考えた時に、それをもしするんだったら、いっそのことどちらかの学校に統合してしまって、確実に交通手段を確保する方が、むしろメリットがあるようにも思うし、そこはちょっと判断しにくいなと思いました。</p> <p>ですので、案2または案3になると思うんですけども、そこでどんなふうな移動手段の確保ができるのかなと。</p> <p>通学だけを考えるのであれば、どちらかに一本化してちゃんと通学手段をつくってあげた方が、常に大人数で勉強ができるという意味では、むしろメリットがあると考えます。</p> <p>ただ、クラブ活動とかそういうことは考えずに、例えば旧大正町地域の子どもが身近な所で学べるっていう意味ではキャンパス制にメリットがあるというところで、少し悩ましいなと思っています。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。平田委員、お願いします。</p>

平田委員	<p>はい。私も、各委員さんと重複する部分がございますけど、一つには、先ほど本校・分校型とキャンパス制型につきまして、ご説明がありました。</p> <p>本来ならば、案4で本校・分校型をとるというのも、案4へ入れておいてもいいんじゃないかなと思っていたんですけど、やはりキャンパス制というのが本校・分校化よりメリットが大きいということで、そこは除いてご提案をされたかなと推測をしておりました。</p> <p>四万十町に2校ある高等学校につきましては、これは今まで検討もしてきましたけど、学校がなくなると地域に若い人がいなくなる、帰らなくなると。また地域のリーダーも不足するのではないかなというような想いを持っております。</p> <p>県の行政におきましても、中山間地域をどう活性化するかということで取り組んでおりますので、高等学校を何らかの形で現状、置くということは大変大事な点ではないかなと思っております。</p> <p>しかし、案1で示されているように、現在のそれぞれの学校の充足率等を見ました時に、将来にわたりましては、本校を確保するには大変困難な面が推測をされます。案1につきましては、難しいのではないかと考えております。</p> <p>それに代わるものとしては、本校でなくてキャンパス制ということで、案2の案を私も第一の方向性としては検討していきたいと考えております。</p> <p>案3につきましても、色々地域の実態等を踏まえた時には、現状では案3というのは、将来的になる可能性はあるかも分かりませんが、あまり検討をしたくないなと考えております。</p> <p>案2を中心に、現在ある学校をいかに活性化し、地域をいかに学校とともに活性化していくかという振興策に取り組んでいただきたいと思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>全体的なお話をお伺いすると、案2を中心に案1と案3もあるというような形で、結局、皆さん1・2・3という格好になるんですけども。</p> <p>できたら2案ぐらいに絞りたいなという気持ちもありましたけども、皆さん方のご意見を聴くと、やはり案1も案3もというご意見もございますので、今回、「中間とりまとめ」の部分でいきますと、やはりこの案1・案2・案3、3案残させていただくという格好にしてよろしいでしょうか。各委員さん、かまいませんか。</p>
木村委員	<p>案1って、本当に可能性がありますかね。今年、来年は可能かも分かりませんが、3年後5年後にこの案1っていうのは、本当に維持していけるものなのかなという、すごく強い疑問があります。</p>
山岡企画監	<p>この窪川・四万十高校だけではなくて、今回の再編振興計画の「後期実施計画」におきましては、中山間地域の学校について、活性化策について取りまとめてもらうように考えております。中山間地域の学校7校と分校について、それぞれ地域の方を巻き込んで振興策を考えてくださいということになると思います。</p>

伊藤教育長	<p>もし今回、窪川高校と四万十高校について、案1をとった場合はそういった振興策を取っていただいで、ICTの活用とか、地元の中学校からの進学率を上げる、それから圏域外の生徒を呼ぶ方策を、具体的なものを盛り込むとか。そういったところが盛り込まれる必要となってくるのかなというふうに思っています。</p> <p>もし案1になれば、そういったことを今後検討するという形になるのかなとは思っています。</p> <p>あまり私は意見を言う場ではございませんけれども、今、皆さんのご意見、各委員のご意見を聴くなかで、やはり、地域から学校をなくすべきではないというような意見は、皆さんお持ちだということはあるんだろうと。そうした時には、どうしてもやむを得ない場合には、残していくということであれば、案1っていうのも残っていくのかなというような気持ちは持っています。事務局の意見に加えて、そういうことなのかなというような感じがしております。</p> <p>ということで、とりあえず案1・案2・案3を残して「中間とりまとめ」の方向へ持っていくという形にさせていただいてよろしいですか。</p> <p>木村委員もかまいませんでしょうか。</p>
木村委員	<p>それぞれの第1案～第3案まで、どれを選んだとしても解決せないか課題が幾つかありますよね。</p> <p>案2にしたら、例えば通学であるとか、クラブで通う時の移動手段をどういうふうに、本当に県費で担保できるのか、第3案もそうですけど。それと、第2案だったらそれぞれのキャンパスの特色といいますか、学科をどういうふうに考えていくのかとか。</p> <p>そこら辺も含めて、ある種こういう課題をこういうふうに解決していく必要があるというものを、もう少しはっきり示さない。今後、地域の人とまた協議をするわけですよ。その時に、なかなか結論へ持っていけないという心配があります。</p>
伊藤教育長	<p>そうしましたら、今のところのスケジュール的な部分にもなりますので、これから、先ほど言った各学校の活性化策であるとか、具体的な学科の持ち方であるとかということと、全体的なスケジュールのところを事務局に説明していただきます。</p>
山岡企画監	<p>今後の予定としましては、5月18日に、今年に入ってから第3回目の協議会を開きまして、「中間とりまとめ」の案の協議をして、その後、5月23日の定例教育委員会で「中間とりまとめ」を決定、公表していきたいというふうに思っております。</p> <p>その後、6月～8月にかけて、それぞれ統合対象校となった所につきましては、それぞれの統合対象校の学校関係者、あるいは市町村の方、そういった方の意見を聴きながら、教育委員会協議会がその地域に出向いて、意見を聴きたいというふうに思っております。</p> <p>そういった意見を聴いたうえで、9月にはパブリックコメントという形でまとめていきたいと思っておりますので、今、木村委員さんの言われたことに</p>

	<p>つきましては、今後、6月7月8月のなかで、精力的に検討していくという形になろうかというふうに思っております。</p>
伊藤教育長	<p>今、木村委員が言われたような疑問点を、解決策も含めてご意見を聴きながら、全体としてまとめていこうというようなことで、進めていきたいというふうに考えておるところです。</p> <p>この案につきましては、先ほど申し上げましたように、それぞれ皆さん、各委員さんご意見ございましたので、もうこの案1・案2・案3で「中間とりまとめ」の方向で持っていきたいと思っております。よろしいでしょうか。</p>
八田委員	<p>学校の最低規模という場合には、案1で両方とも本校になった時には、一応本校としての最低規模を何とか確保するという活性化策が、どうしても必要になるということ。</p> <p>キャンパス制の場合にはまとめて本校1校という形でいいのか。ちょっとキャンパス制というのが、今までの再編振興計画の最低規模の考え方というのには、なかったような気がするの、そこは確認したいのですが。</p> <p>キャンパス制で1校になれば、その1校で最低規模でいいという考えでいいでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>最初、この資料1にもありましたように、キャンパス制というのは、それぞれのキャンパスで一つの学校ということになりますので、最低規模という部分につきましても、一つの学校でということ1校でと。</p> <p>両方合わせて最低規模を満たしているのかという形になります。</p>
伊藤教育長	<p>それでは、高吾地区の案件については、そういった形で取りまとめをしていくということをお願いいたします。</p>

(3) 東部地域の継続検討事項について

伊藤教育長	<p>では、続きまして、東部地域の継続検討事項について協議にしたいと思います。具体的には安芸市の安芸中学校・高校、それから安芸桜ヶ丘高校の学校の在り方についてというふうになります。</p> <p>少し資料が多いようですので、説明を分けて進めたいと思います。まず資料3～8について、高等学校課から説明をお願いします。</p>
山岡企画監	<p>4ページをご覧ください。3月16日の教育委員会協議会でお示ししました学校の在り方の方向性について、再度掲載しております。</p> <p>一番右の学校の在り方の方向性の部分ですけれども、安芸高校は東部地域の進学拠点校として、生徒の国公立大学や難関大学への進学を実現できる支援体制の充実を図る。</p> <p>そして、進学の実績を他校へ普及することで、県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。</p> <p>「東部地域の運動部活動強化拠点校」としての取組のほか、地域の強みや伝統を生かした運動部・文化部の活性化を図る。</p> <p>南海トラフ地震への対応や、適正規模を維持する東部地域の拠点校とし</p>

て、活力ある学校づくりが必要。そのため、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の在り方について検討が必要というふうにされております。

下の段の安芸桜ヶ丘高校につきましても、工業科では「環境建設科」として充実を図り、ものづくりや資格取得等の取組を進め、時代に即した技術者等の育成に努める。

商業科では、地場産業や地域観光の振興に寄与する情報発信や商業開発ができる商業人材の育成に努める。

こうした取組を通じまして、地域のニーズに応える地元産業の活性化に貢献する人材の育成を図る、ということになっております。

そして最後の段は、安芸高校と同じく、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の在り方について検討が必要というふうにされております。

続きまして、5ページをご覧ください。

第8回の教育委員会協議会で、南海トラフ地震への対応と併設型中高教育一貫校について、教育委員の皆様から出された意見の概要を掲載しています。

今回、この東部地域の学校につきましては、南海トラフ地震への対応、そして併設型中高一貫教育校の部分についてが論点になってきますので、ここでご説明をさせていただいて、再度確認をいたしたいと思っております。

南海トラフ地震への対応につきましては、被害が予想されている学校については、生徒の安全第一で検討していく。なお、その際は、想定外も想定していく。

また、学校の移転につきましては、浸水深だけでなく、市町村のまちづくりやBCPも含め、総合的に判断していく必要があるというものでございました。

そして、併設型中高一貫教育校の論点では、県立安芸中学校につきまして、「存続の有無も含め検討する必要あり」という意見、あるいは「継続すべきである」という意見があり、今後どうしていくかを継続して協議していくというものでございました。

その時に出された具体的な意見としましては、市町村と一緒にどうあるべきかを検討していくべきである。

児童数が減少していく状況では、現在の入学定員（60人）を維持することは難しいため、場合によっては、市町村立中学校との連携を行うことにより、募集停止もあり得るといったような意見。

そして、本県の地理的なバランスを考えると必要である。なお、継続する場合は、教育内容の充実を図ることが必要である。

平成29年度の志願者の大幅減の要因も分析しながら、運動部活動の拠点校としての振興策を図っていく必要があるといったようなものでございました。

そして、2番の所ですけれども、第9回教育委員会協議会で、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校について、教育委員の皆様から出された意見の概要を掲載しています。

東部地域の拠点校であり、進学やスポーツにおけるさらなる充実や活性化が必要。

距離も近いので、2校の振興策を考えていく必要がある。

県立中学校は現在の入学定員での維持は困難であるので、検討が必要。

安芸中学校・高等学校は、海が目の前の校舎で学ぶことには、ちょっと恐怖感があるといったような意見。

そして、安芸地域のまちづくりと一緒に考えていく必要がある。

南海トラフ地震への対応については、科学的な津波対策が必要である。

併せて、想定外のことも考えなければいけない。なお、子どもたちのことを優先して考えなければいけないといったようなご意見がございました。

続きまして、6ページをご覧ください。県立中学校に関する資料です。

県立安芸中学校は、平成27年度まで入学定員が70人でしたが、平成28年度以降は60人となっています。60人定員のところ、平成29年度は志願者36人、志願倍率0.60。平成30年度が志願者54人、志願倍率0.90というふうになっています。

次に、県立安芸中学校への進学実績のある市町村における小学6年生の児童数の推移ですけれども、平成29年度が583人でありまして、今後の推計では、34年度に516人に減少する見込みで、11.5%の減が見込まれます。

香南市を除いた数でいいますと、平成29年度が292人、今後の推計では、平成34年度に231人に減少する見込みで、21.9%の減が見込まれております。

続きまして、7ページをご覧ください。安芸高校と安芸桜ヶ丘高校のこれまでの入学者数の推移と今後の推計です。

なお、安芸高校の入学定員は、平成28年度までが160人、平成29年度以降は120人となっています。安芸桜ヶ丘高校の入学定員は、平成29年度までが120人、平成30年度以降は80人というふうになっています。

安芸高校は、平成18年度には154人の入学者がおり、年度ごとに増減はありますが、平成30年度までの13年間の平均は118人です。平成27年度から平成29年度までの3年間、100人を下回りましたけれども、平成30年度は114人と、3桁の生徒数に戻っております。これまでのデータに基づく推計ですけれども、今後の入学者数は、おおむね70人台を推移するものと考えられます。

安芸桜ヶ丘高校は、平成18年度には91人の入学者数がおり、年度ごとに増減はありますが、13年間の平均は59人です。平成28年度に20人台となり、その後、30人台の入学者となっています。これまでのデータに基づく推計でいきますと、今後の入学者数は、30人程度というふうに見込まれています。

続きまして、8ページをご覧ください。東部地域の市町村ごとの中学校卒業生数の推移です。

平成29年3月時点では、室戸市・東洋町で90人、中芸で75人、安芸・芸西で183人、東部地域全体で348人でしたが、平成38年3月は、それぞれ42人、46人、149人となりまして、合計237人、31.9%の減というところが、中学校卒業生数の推移として見込まれております。

続きまして、9ページをご覧ください。併設型中高一貫教育校についてご説明いたします。

2番の所から説明したいと思います。2の本県における中高一貫教育の導入の意義としましては、中等教育の選択の幅を広げる。そして、6年間の継続した教育による指導の継続性の確保、高校受験の負担の解消、部活

動の活性化などでありました。

一方、導入における留意点としましては、市町村行政との緊密な連携、地域の児童生徒数、そして子どもや保護者のニーズ、地域バランス等に配慮するというものでありました。

そのうえで、本県における中高一貫教育の成果としましては、3番に書いていますけれども、東部・中央部・西部の3つの地域に配置されており、既存の中学校以外の進路の選択肢となっている。

そして2つ目、中高合同の行事や部活動等の取組を通じて、異なる年齢の生徒同士の交流が進んでいるというところです。

具体的にそこに書いておりますけれども、中高の合同行事の具体例、そして中高で一緒に活動している部活動、それぞれ運動部、文化部活動が列記されております。こういったところで、一定の成果を上げているというふうに考えております。

そして3つ目、部活動の中高合同練習などの成果として、中学校、高等学校のそれぞれで活躍している部活動があるというところです。平成29年度の中学校の実績、高校の実績を載せております。県大会で優勝した例、四国大会に出場した例、全国大会に出場した例、それぞれ平成29年度の実績を載せております。

4つ目として、卒業者数に占める国公立大学や難関私立大学への進学者数の割合が、約半数になっているというところです。

導入前の3年間は、その矢印(⇒)にもありますけれども、導入前直近3年間の国公立大学進学者の割合は平均が15.1%でしたけれども、直近の平成27、28、29年度の3年間で見ますと、平均割合は16.4%というところになっております。

そして、国公立大学に占める内進生の割合というところが、平均割合で63.5%というところがございます。

難関私立大学への進学につきましても、直近3年間では、早稲田大学、関西大学、中央大学と、難関私立の方にも進学者を出しております。

そして、県立安芸中学校では、開校当初から英語教育の充実した教育プログラムによりまして、英語力の育成を行っております。そこにもありますけれども、英検の取得で一定の実績を上げているというところがございます。

また、安芸中学校におきましては、併設の安芸高等学校への進学者数が増加しているということで、平成27年度(76.5%)、28年度(87.0%)、29年度(91.3%)、それぞれ進学者が増加しているといったようなところでございます。

一方、課題としましては、市町村立の中学校では、生徒数の減少、リーダーとなる生徒の不在、団体競技の部活動でチームが組めないといった影響が出ているといったところ。

志願段階から女子が多く、全体的に県立中学校では女子の割合が高い傾向だということ。

そして中学校では、先ほども申しましたけれども、入学者数が減少し、入学定員を満たせない状況もあるといったようなことがございます。

続きまして、11ページをご覧ください。安芸市内の県立学校であります、安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高校で、想定される津波被害について

ご説明いたします。

表になっておりますけれども、敷地の一番低い所からの津波での浸水深は、安芸中学校・高等学校の場合は5mで、全ての校舎の2階まで浸水することが想定されています。

安芸桜ヶ丘高校の場合、グラウンドや体育館の1階、及び南舎の1階のみが浸水することが想定されますけれども、体育館の2階、中舎・北舎は浸水しないというふうに想定されています。

30cmの津波の到達する時間は、安芸中学校・高等学校は約57分、安芸桜ヶ丘高校の場合は95分というふうに想定されています。校舎は両方とも4階建てというところです。

避難場所につきましては、安芸中学校・高等学校の場合は、北舎屋上にあります。安芸桜ヶ丘高校の場合は、安芸市総合運動場（補助グラウンド）となっています。

避難所の標高は、安芸中学校・高等学校の場合は23.5mであり、安芸桜ヶ丘高校の場合は20mとなっています。

避難場所の広さですけれども、安芸中学校・高等学校の場合は849㎡、安芸桜ヶ丘高校の場合は13,000㎡となっています。

避難距離・避難時間は、安芸中学校・高等学校の場合は校内にあります。安芸桜ヶ丘高校の場合は200mで10分程度というふうになっています。

校舎の避難指定というところでは、安芸中学校・高等学校の場合は津波避難ビルに指定されており、安芸桜ヶ丘高校の場合、指定はされていません。ここでいう避難指定には、津波避難場所、避難所、福祉避難所がありますが、このうち「津波避難場所」とは、津波からの危険を回避するため、一時的・緊急的な非難を行う場所のことで、具体的には、高台、津波避難ビル、津波避難タワー、津波避難シェルターなどがあります。

横の備考の所に入ります。安芸高校につきましては、南舎は平成27年1月に着工、平成28年2月に完成しているというところです。

南舎につきましては、南海トラフ地震対策として、当初の3階建てから4階建てに変更しています。また、耐震校舎となっております。

ただ、海岸に面しておりますので、直接的な津波被害を受けると予想されておりますが、南舎及び中舎が防波堤となり、北舎を守ることにすると想定されています。

ただ、敷地内の全てが浸水するため陸の孤島となるということが見込まれています。

また、近くに適切な避難場所がないというところでもあります。

この校舎が避難場所指定にされているということはありません。

ソフト対策として避難訓練を年に3回ほど実施しております。

安芸桜ヶ丘高校につきましては、耐震校舎となっておりますので、海岸から民家やなはり線の線路が堤防となり、津波被害は一定少ないと予想されております。

敷地内の北側校舎や補助グラウンドに避難することで、被災後の支援を受けやすいとされています。

校舎の避難所指定はありません。避難訓練はソフト対策として、年3回実施しております。

なお、安芸高校の南舎改築に当たりましては、被災状況予測の公表後で

伊藤教育長	<p>あったため、「津波被害が予想されるなかで税金を使って改築するのか」といった意見がありましたけれども、「現状のなかで被害を軽減できるような対策をとる」ということで改築を行いました。</p> <p>また、改築に際しましては、想定されるL2クラスへの耐震及び浸水深5mとなる津波に耐えられる構造計算は行っております。ただし、学校としては、生徒にとってより安全な北舎を避難場所としているというところです。</p> <p>そうしましたら、高等学校課の方から、これまでの議論の経緯、それから出されましたご意見、県立中学校に關しての資料、それから高等学校、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の入学や今後の見込みの状況、併設型中高一貫教育校、中学に關するこれまでの成果、それと安芸市内の2校、県立安芸中学校・高校と安芸桜ヶ丘高校、両校に關しての南海トラフ地震に關しての津波被害の想定状況、これらを今ご説明をいただきました。</p> <p>ここままで、ご意見とかご質問とかありましたらお受けしたいと思えますので、よろしく願いいたします。</p>
平田委員	<p>資料8、ページ数でいいましたら、11ページの「安芸市内の県立学校の津波被害について」という、この資料につきまして、私、前回の教育委員会協議会で、安芸地域の2校の高等学校についての津波、南海トラフ地震について、安全面については科学的根拠をもってきちっと説明しないといけないんじゃないかという、お話をさせていただきました。</p> <p>おそらくこの11ページが、いろんなデータをもって、より安全な場所をどこにするかという資料になるだろうと思います。これを見る限り、そこに学んでいる子どもたちは、安全面は一定確保されているとは見ておりません。</p> <p>しかし、それ以上の想定外になれば、どう対応すればいいかということだというふうに見ておりますけど、事務局として子どもたちの安全に關する科学的根拠ということであれば、これはどういうふうに考えているのか、ご意見を聴かせていただきたいというふうに思っております。</p>
山岡企画監	<p>そうですね、南舎の改築は行いまして、平成28年2月に南舎が完成しています。そこでは、想定されているL2クラスへの耐震及び浸水深、5mの津波に耐えられる構造計算を行っているということですがけれども、委員さんの意見にもありましたけれども、想定外も想定するといったようなところであれば、なお、さらなる安全面等は考えていくべきではないかというふうには思っております。</p>
平田委員	<p>安芸市では、もう皆さんもご承知のとおり、私も新聞紙上しか分かりませんが、市役所の位置問題とか、いろいろ議論をされていると思います。</p> <p>現在高等学校が建っている、この2つの高等学校の地点につきましても、いろんな面で資料が出ていった場合に、安芸市民が見ました時に反響もあろうかというふうに思っております。</p> <p>この辺について、事務局として県立学校の地震とか津波に対する高等学校の安全性については、かちっと一定説明ができるように、また不安な面は不安な面で説明できるようにしておっていただきたいというふうに思っ</p>

	ております。
八田委員	<p>資料6での、東部地域での中学生の卒業者数の推移というのを見ると、市町村によっては元々その市町村全体を集めても、いわゆる40人学級にはならない所が大多数なんです。</p> <p>安芸市と室戸市がギリギリ2クラス以上できるのかなと思うんですけど、具体的に、複数学級がつくれている中学校っていうのが、何校あるのかというのが分かりますか。例えば逆に、そうでない学校はいくらぐらいあるのか。</p>
山岡企画監	<p>ちょっと今、持っておりませんので、また後日、資料提供をさせていただきます。</p>
長岡次長	<p>現状においては、安芸市に2校がございますので、安芸の清水ヶ丘中学校、そして室戸中学校。室戸中学校も学年によっては、1クラスがあったと思います。</p> <p>そういった意味で、2クラスがあるのが本当に、清水ヶ丘中学校と室戸中学校だったと思います。</p>
八田委員	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>市町村では、特に中芸の場合、市町村がいくつかあって、それぞれの中学生の数が非常に少ないので、公立中学校の規模がいずれにしても非常に小さくなっていて、今回の中学校の議論の時に、県立安芸中学校が地域の学校規模に影響を与えるっていうことも議論としてはあったんですけども。</p> <p>今度は逆に、安芸中学校がなかったとしても、かなり小規模の公立中学校が非常にたくさんあるという実態にはもう変わりはないです。</p> <p>それで一つ、これまでの観点とはちょっと違うかもしれませんが、安芸中学校がなくなってしまうと、小規模な公立中学校にしか行けないという状況が、逆に出てきてしまうのかなということを少し危惧しました。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>先ほどの2クラスつくれるっていう部分を、今、長岡次長からお答えいただきましたけど、もし違っているようでしたら、改めて資料提出を皆さんにさせていただくようにお願いします。</p>
竹島委員	<p>資料5の志願者数の推移なんですけれども、今回、県立安芸中学校のことも議題に上がっていますけれども、平成29年度で男子が10人、女子は26人で、30年度で男子が同じ10人、女子は44人に増えていますけれども。</p> <p>これの分析っていうのを、同じようにPRもしたと思うんですけども、やはり男子は私学へ行くとか、男子の数が元々少ないのか、それとも市内に流れていくのかっていうのは、それはどっちなのでしょう。</p>
山岡企画監	<p>平成29・30年度につきまして、男子が少ないのは、男子が高知市内の方に抜けている割合が多いからだというふうに聞いています。</p>

竹島委員	<p>県立の場合は、やはり県教委の担当なので、そこら辺の努力っていうか、ちょっとお聴きしたいんですけども。</p>
竹崎課長	<p>男子が少ない傾向といいますのは、県立安芸中学校ができたころから、どちらかと言いますと、やはり女子の方の志願者が多いというふうな傾向がございました。</p> <p>県としましても、体育の授業でありますとか、そういった授業のことを考えますと、やはり男子と女子が同程度がいいのではないかと。特に男子が少なく、男子のそういった部活動であるとか体育などが成立しないといったような現状も出てきておりましたので。</p> <p>これにつきましては、平成28年度から入学定員を男子と女子で30名程度にするというようなことで、少し変更をさせていただいて募集をしてきたような経緯がございますけれども、なかなかその年々の生徒さんの考え方がありますとか、そういったところがあって、やはりどうしても高知市内に抜ける生徒さんが多くなったりと、いったような傾向が出ているところでございます。</p>
竹島委員	<p>私も定例会とかで、なるべく半々の方がいいということは、お聴きしていましたがけれども、何かこの2年続けてというのがすごく気になるんですけども。</p> <p>今後やはりこういう状態で推移していくんでしょうか。</p>
竹崎課長	<p>どうしても、先輩の中に男子が少ないということになりますと、後から入ってくる生徒さんも、入っても男子が少ないかなというような傾向が、どうしても続いてしまうのかなといったところがございます。</p> <p>そういったところが、やはり県立中学校の方でしっかり、部活動についても授業についてもしっかりできているよというようなところを、少し説明もさせていただいたうえで、また来年度の募集を募るというような形になるかとは思いますがけれども。</p>
伊藤教育長	<p>ほかはございませんでしょうか。</p> <p>そうしましたら、またこの後でも、これまでのご質問とかご意見ありましたらできると思っておりますので、次の説明に移らせていただきたいと思います。</p> <p>そしたら、資料9以降の説明をお願いします。</p>
山岡企画監	<p>資料9についてご説明をさせていただきます。安芸中学校・高校と安芸桜ヶ丘高校の2校に関する検討事項についてというところです。</p> <p>検討事項の一つ目としましては、県立安芸中学校の継続の有無というところでございます。</p> <p>現状は、今もありましたけれども、入学定員60人に対して志願者が1倍に満たない状況が続いているというところです。</p> <p>それから、黒丸(●)の2つ目ですが、資料5でありましたけれども、今後5年間で116人減少して、16.6%の減。</p> <p>そして、今後としましても、同じく資料5にもありましたけれども、今</p>

後5年間で67人減少して、平成34年度には516人になるというところ
です。

また、周りの状況としましては、安芸市の2つの市立中学校が統合予定
というところですが、この部分につきましては、立地場所によりまし
ては、県立安芸中学校の志願者が少し増える可能性もあるといったよ
うなことも言われております。

今後の検討事項としては、現在の入学定員60人の維持が難しいのでは
ないか。定員については、削減する場合は、50人ではなく40人また
は35人となる可能性もあるといったところが、今後の課題という
ところですが、

続きまして、検討事項の2つ目でございます。2校の存続の有無とい
うところですが、

安芸高校につきましても、資料5にもありましたけれども、平成38年
度には80人定員規模を下回る。安芸桜ヶ丘高校も30人を下回ると
いったような状況がございます。

こうしたことから、1校としての規模も小さくなりまして、学校とし
ての活力が失われるのではないかと、

そして、両校合わせても、現在は実質4学級規模の生徒数しかおら
ず、このままでは近い将来、3学級、2学級規模まで減少していく
可能性もあるのではないかと、

そして、東部地域においても、拠点校として活力ある学校づくりが
必要ではないかというところがございます。

そういったところを、次のページに複数の案をお示しして、安芸中
学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高校について検討をしていったところ
です。

13ページにありますように、案の1～6までございますが、県立安
芸中学校・高等学校、安芸桜ヶ丘高校につきましては、一つは県立
安芸中学校を存続するか、募集停止にするかという論点がありま
すので、この6案をお示したいというふうに考えています。

大きく分けまして、県立安芸中学校を継続する案が、案1～案3
まで。そして、県立安芸中学校を募集停止とする案が、案4～案
6までというふうになっています。

そのうえで案1と案4が、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校を本校のま
ま存続する案です。

案2と案5が、両校を統合したうえでキャンパス制を導入して、
安芸キャンパス・桜ヶ丘キャンパスを併用して活用するもので
す。

そして、案3と案6が両校を統合したうえで、統合後の校地を
安芸桜ヶ丘高校の校地に一本化するというものです。この場合、
また細かく分かれますけれども、安芸高校の敷地をどうするの
かという点につきましては、体育館やグラウンドのみ使用する
という考え方、あるいは全く使用しないというようなことが考
えられると思います。

具体的に案1～案6を見てみますと、まず中学校のところで考
えますと、一つ目、6年間の学びの部分についてどう考えるのか
というところですが、

案1の丸(○)の2つ目には、6年間の学びを生かした進学実
績が保障される。こういったところをベースとしているのが、
案1・案2・案3でございます。案1・2・3には同じく、6
年間の学びを生かした進学実績が一定保障されるというところ
がメリットになっています。

一方、案4には、●の一つ目、6年間の学びを生かした指導が実施できなくなるといったところで、案の4・5・6はこの部分がデメリットというような位置付けになっております。

続きまして、案1の●の一つ目、例えば中学校では、生徒数減少に伴い、部活動の縮小など、活力ある教育活動が実施できなくなる可能性があるといったところがございます。こういったところがデメリットとなるのが、案1・案2・案3でございます。

続きまして、案4の星印(★)の真ん中です。県立中学校の募集停止に伴い、安芸高校の進学指導のさらなる充実が必要となると。こういった課題がありますのが、案4・案5・案6でございます。

今のところが、中学校をどうするのかといったところが論点でございます。

続きまして、南海トラフ地震のところでございます。

南海トラフ地震につきましては、案3と案6が南海トラフ地震に備えた立地となるということになっております。

一方、案1・案2・案4・案5につきましては、想定外の南海トラフ地震への対応が課題というふうになっております。

続きまして、案1の●の2つ目、3つ目、それから★の一つ目、高校では生徒数減に伴い、選択科目が開設できない状況が生じてくる可能性がある。高校では学校行事や部活動の運営等の面での活力が失われる。中高とも東部地域の児童・生徒数の減少のなか、今以上に入学者が減少する。こういったところがデメリット、あるいは課題となっておりますのが、案1と案4でございます。

そして、案2の○の2つ目、一定規模(生徒数)をもって、活力ある教育活動が展開できる。学校行事の合同開催、両キャンパスの生徒による部活動の実施・大会出場など。こういったところがメリットとなるのが、案2・案3・案5・案6でございます。

続きまして、案2の○の3つ目、2校分の校舎、グラウンド、体育館等、充実した施設・設備を利用できる。こういったところがキャンパス制のメリットとして挙げられていますので、ここがメリットとなっているのが、案2と案5でございます。

続きまして、案2の●の2つ目、3つ目ですけれども、距離は近いが、交流に伴う移動手段の検討が必要になる。そして、本校と比べると合同行事等の実施のため、それぞれのキャンパスの独自性が失われるといったところがデメリットとなっております。これが、案2・案5のデメリットということになっております。

それ以外の、共通する部分以外では、案3の場合、●の2つ目、安芸高校に比べると現在の安芸桜ヶ丘高校の施設・設備は少し規模が小さいとか。

あるいは、現施設では中学校・高校の全員が学べる校舎等の施設ではないため、新館または増築などの対応が必要となってくるといったような課題が、案3にはございます。

あと、案4の場合は、高校については、原則、今のまま学校が存続するとか。

そして、案6場合は、安芸高校に比べると現在の安芸桜ヶ丘高校の施設・設備は少し規模が小さいけれども、新館または増築などの必要はないとい

	<p>ったようなところが課題となっております。</p> <p>続きまして、12ページにお戻りください。真ん中の所ですけれども、2校で存続する場合には、各校の活性化策を検討することになりますけれども、安芸高校の適地移転をどうするのか、南海トラフ地震についての対策というところがございますので、安芸高校の適地移転をどうするのかといった課題が残ります。</p> <p>統合する場合は、校地をどうするのかといった問題が生じます。一つは安芸桜ヶ丘高校に一本化する案。もう一つは、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校を併用する案ですけれども、後の案の場合には、安芸高校の適地移転をどうするのかといった課題が残ります。</p> <p>統合する場合は、統合校の活性化策を検討する必要があります。平成30年度では、両校合わせて5学級ですけれども、統合する場合は、5学級または4学級にするのか。</p> <p>あるいは現在の普通科、商業科、工業科を踏まえ、学科・専攻・コースなどをどうするのか。</p> <p>また、進学拠点校としての学力向上策、部活動拠点校としての魅力をどうしていくのか。</p> <p>東部地域の市町村立中学校との連携強化をどのように進めていくのかといった検討課題が出てくるということでございます。</p>
伊藤教育長	<p>ただ今、資料9に関してご説明をいただきました。</p> <p>具体的に案1～案6というふうな形をお示したところですが、簡単にまとめると、中学校を継続するのか、存続するのか。それと、2つの高校を両方本校として残すのか、キャンパス制をとるのか、どちらかに統合するのか。大きく分けると、この2つになるんだろうというふうに思います。</p> <p>まずは中学校の方について、検討事項1としまして、県立安芸中学校の存続についてのご意見を順番にお伺いをしていきたいと思っております。その後、2つの高校の存続についてお聴きしたいと思っておりますので。</p> <p>そしたら、今度は平田委員から、中学校の存続等についてお願いをいたします。</p>
平田委員	<p>県立安芸中学校につきまして、説明資料としましては資料7だと思っております。9ページ、10ページに書かれている資料ではないかと思っておりますけれども。</p> <p>中高一貫教育校の導入というのは、地域の子どもたちの選択の幅を広げるといふ理由とか、6年間継続した教育により、指導の継続性を保ちながら、能力、伸長、興味・関心に応じた教育に取り組んでいくという、この趣旨は変わらないと思っております。</p> <p>そこで、本県におけるということでございますけど、成果と課題ということで書かれておまして、成果につきましても①②③④、特に④はデータで卒業生数に占める国公立大学、難関私立大学への割合なんかは、一定評価ができるデータが出されているというふうに思っております。</p> <p>課題につきましては、いわゆる①の市町村立中学校では、生徒数の減少やリーダーとなる生徒が県立中学校へ抜けて、影響が出ているということ</p>

	<p>も当たっていると思います。</p> <p>また、④では、東部地域の減少傾向は大変大きいものがあるというふう に思っておりますけど、入学定員を満たさない状況も続いているというよ うなことで、安芸中学校を継続するのか、募集停止にするのかというのは、 私自身、現時点で判断するデータを十分持ち合わせてないというのが、私 の今の状況でございます。</p> <p>ぜひ、高等学校サイド、また県教委から見たサイド、市町村教委、小学 校の学校とか中学校も当然でございますけど、安芸地区では、どういふ うに安芸中学校をとらえているのかということをも十分協議をして、一定の 方向性を見つけ出してほしいというのが、現在の私の気持ちでございます。</p>
伊藤教育長	はい、ありがとうございました。八田委員、お願いします。
八田委員	<p>資料7の中高一貫教育の在り方というところなんですけれども。</p> <p>資料7の最初の導入上の留意点で、既存の中学校の在り方も考えて、市 町村行政と緊密な連携を図りながら進めていく必要があるということで、 県の委員会としてだけの意見をあまり強く言うことが、なかなか難しいな という気がしています。</p> <p>その影響としてやはり、平田委員もご指摘になりました10ページの課題 という所の1番、市町村立の中学校でリーダー層とか生徒数が減って、部 活動ができないようになっていくということなんです。</p> <p>ただ、実はここの影響が出ているというのは間違いはないんですけども、 生徒数が減っているのは県立中学校の影響だけではなくて、根本的にほと んどの公立中学校が極端に小規模化しているわけです。</p> <p>このことが実は、地元の中学生にとっては非常に大きな動機になってい るような気がしていて。もちろん近くの地元の公立で学びたいという子も、 もちろんあるんですけども、もう少したくさんの生徒がいる所で団体競技 とか部活動をやりたいという子どもにとっては、県立安芸中学校が唯一の 選択肢になっていくのではないかと。</p> <p>そうなると、県立安芸中学校なしになったら、もう全てのこの地域の子 どもたちは、少人数であるがゆえに、いろんな不利益を被ってしまう。そ う考えると、どうしても県立安芸中学校を残したいと思うんです。</p> <p>一方で、だとすると、ある程度の規模を維持できないんだったら、そう やって残す価値もなくなってしまうので、ギリギリどれぐらいの規模が適 正かというのが難しいと思っています。</p> <p>今の60人でも当面確保は非常に厳しいんですけども、ある程度の規模で県 立中学校を維持することによって、この地域の子どもたちにとっては、近 くの学校にそのまま行くのか、あるいは県立中学校に行って、少し大勢の 中で一緒に勉強したり、団体競技とかで部活動をやったりという、選択肢 を残してあげられることが重要なというふうに思います。</p> <p>でも、それをやっていくためには、県立中学校だけでは、これは議論で きなくて、この地域の市町村の学校の在り方を、一緒になって市町村と議 論しないといけないなというふうに考えます。</p>
伊藤教育長	はい、ありがとうございました。木村委員、お願いします。

木村委員	<p>私は、併設型中学校を残すべきだというふうに考えています。</p> <p>一番の理由は公平性です。西部地区・中部地区・東部地区、それぞれのエリアで保護者も子どもたちも、中高一貫の学校を選べるとい選択肢がちゃんとあると。必ずしも3カ所で全てが公平かどうかというと、少しくエスチョンマークが残りますが、少なくとも東部地区・西部地区・中部地区にそういった学校があるというのは、必要だというふうに考えています。</p> <p>また、先ほどの話にもありましたが、国公立への内進者の進学率というのが63.5%でしたか、結構な成果をあげていると思いますし、必ずしも難関校へ行くことだけが目的ではなくて、多分、持続的で深い学びを6年間続けることで、社会に出てからどれだけ役に立つ人間に育っていくかということ、多分先生方も意識してくれているだろうし、そういった教育の仕方を絶対にせないかんというふうに思いますが、そういったことが明らかにできているというふうに思います。</p> <p>そういった社会で役立つ子どもがどれだけできているかというのは、数字として表せませんが、この国公立・難関校への内進立63%を超えているということだけでも、おそらく推定ができるんじゃないというふうに思うので、ぜひ、そういった併設型中高一貫の学校を東部地区にも残すべきだというふうに私は考えます。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。中橋委員、お願いします。</p>
中橋委員	<p>私は、県立安芸中学校は地域において、今まで一定の役割は果たしてきたんだと思います。</p> <p>ただ、最近の地域全体の生徒減少、それから正直言って、長年にわたる定員割れの状態、こういう現状を見て、資料7にある中高一貫を導入された、その意義が現在生かされているのかどうかということについては、疑問を感じざるを得ないところがあります。</p> <p>中高一貫で目指すべき姿に、今、安芸中学校がなっているのかということ、私としてはこの際、募集停止というのも一つの選択肢としてあるのではないかなと思います。</p> <p>ただ、次に多分、議論というのか話をされるであろう、高校の在り方にも関わってくるかと思うんですが、今後、今あがっている安芸高校・安芸桜ヶ丘高校がどのような形になるのかによって、中高一貫のメリットというものが生かせる道がある、また、そういう中学校になれるのであれば、まだ継続の可能性もあるのではないかなと思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。竹島委員、お願いします。</p>
竹島委員	<p>木村委員の意見と重なると思いますけれども、やはり最初の方向性として、高知県として、中部・東部・西部に必要だということで立ち上げた併設型中高一貫教育の学校なので、私は必要だと思います。</p> <p>やはり、勉強もクラブ活動も6年かけてじっくりできるということは、すごく魅力的だと思うし、中部に行ける子どもさんもいるけれども、いろんな問題があって東部に残るしか選択肢のない子どもさんにとって、やはりそれは大切だと思うので、なくすことはできないと思いますし、本当に</p>

伊藤教育長	<p>いろいろなことを6年間かけて、文武両道頑張っていくためには必要だと思います。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それぞれ、地元市町村さんのご意見をもう少し聴いて検討すべきだという意見と、それから、東部・中部・西部というような形のなかで残していくべきだという意見と、それから、やはり現状を見た時に、当初の意義が達成できている状況ではないので、この際募集停止の選択もあるだろうけども、この後の高校の議論によって生きる道があればというような、そういったような、大きく3通りのご意見だったかなというふうに思います。</p> <p>大きくいうと、まだまだ全体的に、やはりもう少し議論を全体的に深めるべきだといったような感じに受け止められましたので、この際、中学校に関して何か補足のご意見等あるようでしたらいただいて、なければ高校の方の議論に移りたいと思いますけども。県立中学校に関して、何か補足のご意見はありますか。</p>
木村委員	<p>八田先生もおっしゃっていましたが、おそらくこの中学校を募集停止しても、ほかの安芸市立の中学校、もしくはそれぞれの町村の中学校の生徒が大幅に増えて、そこで今まで以上の学級がつかれるというのに、すごく疑問があって、おそらく、より少なくなるのではないかと思います。</p> <p>そういう意味では、この中学校がそういった意味の補完の中学校なんじゃないかなというのを強く感じました。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>そうですね、八田委員からそういう、一つは、全体的に自治体の規模が小さいなかで、中学校のクラスが1クラスで少ない状況のなかで、そういう一定規模のある中学校に行くチャンスが、ここであるんじゃないかというご意見もいただきました。</p> <p>その辺も含めて、やはり複数の方からご意見をいただきますけれども、もう少し市町村、地元の方々の意見も踏まえて検討していくというような形かなというふうな感じですので、仮置きをしたうえで、高校の方の議論へ移らせていただきたいと思います。</p> <p>そうしましたら、県立高校の6案といいますけれども、実際には、中学校を除くと3案になりますが、そこについてそれぞれ、南海トラフ地震対策というものもありますし、それから、一定規模を保って活力のある学校としてどういうふうにしていくべきかという議論もありますし、併せて総合的に高校教育の質もどう確保するか、そんな観点から色々あると思いますけれども。</p> <p>今度は、竹島委員の方から高校の取り扱いといいますか、方向性についてご意見をいただきたいと思います。お願いします。</p>
竹島委員	<p>色々問題もありますけれども、「前期実施計画」の高知南中高と高知西高校の統合の時に、最初に私が言ったんですけれども、高知南中高というのは本当に立派な、敷地も大きいし、ただやはり想定外のことを考えた場合、子どもたちの命というのを考えた場合、やはり安芸高校の位置っていうの</p>

	<p>は、私としては少し不安が大き過ぎるんですね。</p> <p>やはり学校訪問もしましたし、もう本当に目の前から、あそこから津波が来ることを考えると、すごく不安ばかりなので、私は案3です。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。中学校の方は、今は置いておきますので、案3か案6かということですね。</p>
竹島委員	<p>はい。</p>
伊藤教育長	<p>はい。それでは、中橋委員、お願いします。</p>
中橋委員	<p>高校のこの2校の在り方についてですが、先ほど竹島委員が言われていましたように、南海トラフ地震の危険、そういったことを考える、あと、両校の学校の規模などを考えると、私としては、本校としてそれぞれを残す案とか、先ほど最初に議論になったキャンパス制とかいうのは、ちょっと違うのかなと、元々のところが違うのかなと思います。</p> <p>そうなる、と言ったらおかしいんですけども、やはり安芸高校というのは、今の場所にいるというのはあまりにも危険だと思います。</p> <p>両校の規模などを考えると、やはり第3案というのか、第6案というのか、統合して校地を桜ヶ丘高校にする。体育館、グラウンド、そのようなものについて、安芸高校の現在のものを使用するしない、その辺りは今後の検討としたらいいと思うのですが。</p> <p>私としては、案3か案6に書かれてある、この案がいいのではないかと考えます。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。木村委員、お願いします。</p>
木村委員	<p>はい。全く同じ意見ですが、両校の視察に行った時に、海の真ん前に建つ学校を見た時に、いくら構造上大丈夫だといわれても、相当恐怖心が湧くんだらうなというのを感じました。</p> <p>想定外のことも想定するという意味合いでは、あの場所に子どもたちを学ばそうというのは、非常にリスクがあるんじゃないかなというのを、その時に感じました。</p> <p>それと、活力ある学校をつくりあげていくという意味では、やはり統合する方がよりいいんじゃないかと。</p> <p>また幸いにして、元々両校は一つの高校から分かれてできていますので、地域の皆さん方に大きな違和感がないだろうというふうに思いますので、私も第3の案がいいなというふうに思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。八田委員、お願いします。</p>
八田委員	<p>本校で残すか、統合かというところでは、やはり学校規模として統合せざるを得ないと思っています。</p> <p>それで、キャンパス制で今、分かれていくのか、それか統合後、桜ヶ丘高校に一本化するかという案、案2と案3なんですけども、現状では安芸</p>

	<p>キャンパスの方は確かに津波の問題があるので、せっかく設備は揃っているんですけども、安芸桜ヶ丘高校の今の校地にするべきではないかなと思います。</p> <p>ただ、安芸高校はかなり設備が充実しているみたいですよ。安芸桜ヶ丘高校は現状では少し設備が十分ではない気がするんで、特に気になったのは、安芸桜ヶ丘高校では渡り廊下は耐震性がないとか、いろんな問題があるので、十分な改修で、総合的にしっかり新築なり増改築をして安心な校舎にしたうえで、安芸桜ヶ丘高校の校地に統合するという意味で、案3が適切ではないかと判断しました。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございます。平田委員、お願いします。</p>
平田委員	<p>私の考えも、今お話のありました委員さんと大変近い考え方を持っております。</p> <p>現在、安芸高校が1学年3クラスだと思っております。そして、安芸桜ヶ丘高校が1学年2クラスだと思っております。</p> <p>西部は拠点的学校があり、中央には大規模校があり、東部には現在、学校規模・適正規模というのは大体4クラス～8クラス、まあ6クラスぐらいの学校が望ましいというような報告書も出ているんじゃないかと思っております。</p> <p>ぜひ今回の検討を通して、東部地区に東部の核となる、一定規模を持った学校をつくってほしいという想いを持っております。</p> <p>これもお話がありましたように、私も地域の声を聴いた時に、東部地区では、安芸桜ヶ丘高校も安芸高校から独立をした学校で、元へ戻してくるということに違和感は少ないのではないかなという感じを受けながら、地元の話をお聴かせいただきました。そういう意味でも、そういう方向で検討していただきたいという想いを持っております。</p> <p>校地の問題につきましては、やはり色々思っておりますけれども、学校の立地場所というのは、高知県の場合には10年、20年でいうスパンでなくて、100年とかというような長いスパンで、やはり校地を選択する必要があるだろう。</p> <p>そういうふうを考えるならば、本当に想定外も大丈夫な位置ということ、現在の学校でいえば、安芸桜ヶ丘高校の校地へ学校を持っていくというのは、適切な判断ではないかというふうに思っております。</p> <p>私としては、第一案としては、13ページに載っています案3か案6か、どちらかではないだろうかというふうに思っております。</p> <p>キャンパス化については、ちょっとこの地については、安芸市内、大変2校は近い距離にもあり、東部の大規模校をつくってほしいという、拠点校という想いと、地域の活性化の四万十町の2校の学校とは、違った考え方を私は持っています。キャンパス校というのはあまり望まないと考えます。</p> <p>案1・案4のこのまま本校として置くというのは、どうも現状において中学生サイドから見た時に、それよりは一本化した方が、子どもたちの切磋琢磨とか教育の質向上には貢献できるのではないかというふうに思っております。</p>

伊藤教育長	<p>中学校段階が詰まっていけば、案3か案6というのが、私の一番の意見でございます。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>皆さんのご意見をお伺いした時に、大体、高校に関していうと、やはり南海トラフ地震への対応を考えた場合には、安芸桜ヶ丘高校に校地を統合する、中学校は別にして。そういう話ですから、案の1～6でいうと、案3か案6という格好で皆さんのご意見が一致したというふうに思います。</p> <p>そうしましたら、県立安芸中学校の方については、先ほど私から話しましたように、まだまだ関係者のご意見をお聴きして、皆さんの意見を聴いてというようなところで、ここで方向性を決めるには課題がといますか、まだ、時期尚早感がございます。</p> <p>安芸の高等学校2校については、委員会の委員の皆様のご意見としましては、やはり南海トラフ地震から子どもたちを守る観点からすると、安芸桜ヶ丘高校に。併せて規模の適正化を保って拠点的な学校としていくには、統合したうえで安芸桜ヶ丘高校にというご意見が主流だと、中心だったというふうに思います。</p> <p>この場合については、案としましては案3と案6を残して、「中間とりまとめ」に持っていかうかと思えますけれども、そういったところで異論はございませんでしょうか。</p>
各委員	了承。
伊藤教育長	何かそのほか、ご意見ございませんでしょうか。事務局から何か。
山岡企画監	特にございませんけれども、また次の日程とか、次の会のことを最後にお話しさせていただきます。よろしくお願いします。
長岡次長	<p>先ほどの安芸郡、つまり東洋町から芸西村までの中学校の規模についてでございますが、同一学年に複数の学級がある学校、これにつきましては、先ほども申しましたように、安芸市の清水ヶ丘中学校、これは1年生から3年生まで2学級ずつございます。</p> <p>そして、室戸中学校ですけれども、室戸中学校につきましては、第2学年が2学級、そして第1学年・第3学年は1学級というような状況になっております。</p> <p>そのほかは、もう1学級、そういう程度になっています。</p>
伊藤教育長	清水ヶ丘中学校の1・2・3年と室戸の2年という、そこが複数で、あとは全部1クラスということですね。
長岡次長	はい。なお、特別支援学級は除いております。
伊藤教育長	今そういう改めた報告もございましたけど、何でも結構ですので、ご意見ご質問など。

木村委員	<p>地域の学校関係者の皆さん方ですとか、安芸市の方々とこれから協議をするなかで、今のこの案は統合ありきになってしまいました。</p> <p>そういった意味で、一本に絞ってたたき台でよろしいのでしょうか。それがちょっとだけ心配なんです。</p>
伊藤教育長	<p>そうですね。それでは、これから広くご意見をいただくということで、高校でいうと、木村委員が言われるように一案に、ここではなりましたが、選択肢として残すとすると、どちらを残しましょうね。</p> <p>やはり広く、それなりに地元の方々のご意見もいただきながら、これから議論を出していけばいいと思いますので、ここで必ずしも一つに、高校については、一本にするんだというような意見に決める必要は、私もないと思います。</p> <p>選択肢として残していくのであれば、どちらかというどっちなんでしょう。統合じゃないという方もあれですので、キャンパス校を残しますか。</p>
木村委員	<p>案3か案6でいこうやって、もうここでけりを付けたら、それでいいんですけど。</p>
八田委員	<p>その方がいいのではないのでしょうか。中学校の方の問題が結構大変なので、ここでは皆さん合意されたような形で、案3ないし案6で。</p>
伊藤教育長	<p>今まで皆さん方のご意見をお聴きすると、やはり一つは、安全をいかに守るかという議論でされていますので、何となく案3・案6以外の、子どもの安全を軽視をして代案をというのも、ちょっとそれもという気もします。</p> <p>これから関係者の皆さんからご意見を聴くにあたって、安芸桜ヶ丘高校に校地を一本化するという以外意見を受け付けません、ということではないと思います。あくまでもたたき台として委員の皆様のご意見のなかで、この安芸については、今の学校の設置状況見た時に、安芸高校では子どもの安全が、やはり大変心配だというようなことからということで、そういう結論に至った。この委員会では、ということでたたき案として、そういう方向性を出させていただくと。</p> <p>それ以降、それ以外のご意見を聞かないということではなくて、そこはしっかりと皆様方の意見をお聴きするということとして、あと中学校の問題は残りますけど、ここでは案3か案6という恰好にさせていただくということでよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>了承。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございます。では、そうさせていただきます。</p>
平田委員	<p>特に一本化というのは、東部地区の核となる学校づくりと教育の質という点があると思いますので、その辺も併せてお願いします。</p>

伊藤教育長	はい、そうですね。先ほどのクラスの子どもの人数、それに対して十分な教育、それからクラブ活動も含めて教育をしていくための規模、そして東部の拠点としていくということのなかで一本化をという話しになっておりますので、そこら辺をきっちりと説明したうえで、書いてまとめていただくことにしたいと思います。
-------	---

【閉会】

伊藤教育長	そうでしたら、ほかに何か関連してございますでしょうか。
各委員	(意見なし)
伊藤教育長	それでは、本日の協議事項は以上で終了となります。これ以外で委員の皆様、また事務局の方から何かありましたらお願いをいたします。
山岡企画監	次は5月18日にまたここで、6時半から行いますのでよろしくお願いいたします。
伊藤教育長	それでは次回、18日金曜日ということですので、よろしくお願いいたします。 それでは、以上で、本日の教育委員会協議会は終了いたします。どうもありがとうございました。